

sive spine surgery for spine deformity and cord injury, Annual meeting of Philippine association of spine surgeons, 1979. 12, Manila.

11) 玉置哲也, 野口哲夫, 山田 均, 高野治雄, 小林英夫, 中川武夫: 誘発脊髄電位の波形分析について, 第9回脳波筋電図学会, 1979. 12, 東京.

12) 宮坂 斉, 井上駿一, 伊藤達雄, 旧中 正, 鄭 元浩: 頸椎性脊髄症に対する椎体全摘法46例の手術成績と術後X線変化の吟味—水溶性造影剤による術後ミエログラムを中心として—, 第52回日整会総会, 1979. 4, 東京.

13) Miyasaka H., Inoue S., Itoh T., Watanabe T. and Takeuchi S.: Combined anterior and auterolateral decompression surgery for cervical spondylosis, 6th Congress of W.P.O.A., 1979. 4, Taipei.

14) Toyoda A., Itoh T. and Hirose A.: A comparative study on the Utilization of SMO-straight nail and AO-curved nail for closed nailing of femur fractures, 6th Congress of W.P.O.A., 1979. 4, Taipei.

15) 高野治雄, 伊藤達雄, 辻 陽雄, 高野昇治: 頻回の下肢骨折を来たした pycnodysostosis の1例, 第53回中部整災学会, 1979. 10, 岐阜.

16) Itoh T., Tsuji H., Tamaki T. and Yamagata M.: Clinical study of dissociated motor loss with cervical spondylosis, 7th Annual Meeting of Cervical Spine Research Society, 1979. 12, Boston.

17) 野口哲夫, 辻 陽雄, 小林健一, 藤井保寿, 鎌田 栄: OPLLによる重度脊髄麻痺の1剖検例—とくに神経病理学的所見—, 第53回中部整災学会, 1979. 10, 岐阜.

18) 伊藤 豊, 藤井保寿, 小林健一, 岡田正晴, 信清典二, 野村龍雄: 大腿骨頸部内側骨折における治療法の検討, 第53回中部整災学会, 1979. 10, 岐阜.

19) 館崎慎一郎, 高田典彦, 保高英二, 遠藤富士乗, 丸山孝二, 恒元 博, 梅垣洋一郎, 中野政雄: ヒト骨肉腫に対する放射線療法の基礎的研究, 第52回日整会総会, 1979. 4, 東京.

20) 松井宣夫, 井上駿一, 勝呂 徹, 高田典彦, 保高英二, 館崎慎一郎, 辻 陽雄: 原発性脊髄腫瘍にたいする手術療法の検討, 第8回脊椎外科, 1979. 6, 名古屋.

21) 勝呂 徹, 井上駿一, 松井宣夫, 梅田 透, 円井芳晴, 高田典彦, 保高英二, 館崎慎一郎: 麻痺を伴った転移性脊髄腫瘍の治療, 第8回脊椎外科, 1979. 6, 名古屋.

22) 石田逸郎, 福岡誠吾, 沢田勤也, 関 保雄, 田中文隆, 高田典彦, 保高英二, 館崎慎一郎, 遠藤富士乗: 骨肉腫の肺転移に対する胸部CTスキャンの応用, 第12回日整会, 骨・軟部腫瘍研, 1979. 7, 大阪.

23) 保高英二, 高田典彦, 館崎慎一郎, 遠藤富士乗, 井上駿一, 松井宣夫, 円井芳晴: 骨巨細胞腫の治療について, 第12回日整会, 骨・軟部腫瘍研, 1979. 7, 大阪.

24) 松井宣夫, 勝呂 徹, 井上駿一, 高田典彦, 保高英二, 館崎慎一郎, 辻 陽雄: 脊椎原発性骨巨細胞腫瘍に対する外科的療法, 第12回日整会, 骨・軟部腫瘍研, 1979. 7, 大阪.

25) 館崎慎一郎, 井上駿一, 松井宣夫, 中村哲雄, 高田典彦, 保高英二, 遠藤富士乗: 高令者に発生せる骨原性肉腫について, 第28回東日本臨整学会, 1979. 9, 東京.

26) 中村哲雄, 井上駿一, 松井宣夫, 高田典彦, 保高英二, 館崎慎一郎, 遠藤富士乗: 多発性肺転移をきたした傍骨性骨肉腫の2症例, 第12回日整会, 骨・軟部腫瘍研, 1979. 7, 東京.

他4篇

産科婦人科学

教授	泉	陸	一
助教授	柳 沼	恒	恣
講師	長 阪	樹	隆
講師	新 居	洋	清
助手	安 井	仁	仁
助手	川 端	正	清
助手	細 川	仁	仁
助手	八 木	義	仁

◆ 著 書

1) 泉 陸一: 腔の腫瘍・類腫瘍, 子宮腔部糜爛, 頸管ポリープ, 517-524, 総合産科婦人科学, 医学書院, 1979.

2) 泉 陸一: 卵巣腫瘍の治療方針の立て方, 159-173, 卵巣腫瘍, 図説臨床産婦人科講座, メジカルビュー社, 1979.

◆ 原 著

1) Yaginuma T.: Histochemical studies of the nerves to the bladder, Acta gyn. obstet. **31**: 747-750, 1979.

2) 柳沼 恣, 小林拓郎, 露口元夫, 木村好秀, 雨森良彦, 鈴木三郎: Ethynodiol diacetate lmg と

Ethinylestradiol 50 μ g の合剤の避妊および月経困難症に対する効果, 日本不妊学会誌 24: 245-256, 1979.

3) 柳沼 恣: 子宮内膜症のDANAZOL療法, 産婦人科治療 38: 509-513, 1979.

4) 橋口精範, 岩崎由雄, 小林拓郎, 柳沼 恣, 雨森良彦, 石原 力, 貝原 学, 齊藤 正実, 鈴木 三郎, 長瀬行之: 「Lo-Lyndiol」による月経困難症の治療, 診療と新薬 16: 1239-1251, 1979.

5) 柳沼 恣: 月経困難症の治療計画とその概念, 臨床婦人科産科 33: 763-769, 1979.

6) Yaginuma T.: Progress and therapy of stress-amenorrhea, Fert. Steril. 32: 36-39, 1979.

7) 柳沼 恣, 泉 陸一: 周産期における児成長に対する成長ホルモンの意義, 日本新生児学会誌 15: 475-478, 1979.

◆ 学会報告

1) 柳沼 恣, 泉 陸一: 周産期における妊婦血中PROLACTINIC CORTISOL の動態と意義, 第31回日本産科婦人科学会総会, 1979. 4, 東京.

2) 柳沼 恣, 泉 陸一: 周産期における児成長ホルモンおよび子宮内胎児発育遅延症の考察, 第15回日本新生児学会総会, 1979. 7, 東京.

3) 柳沼 恣, 泉 陸一, 長阪恒樹, 新居 隆, 川端正清, 細川 仁, 八木義仁, 藤盛亮寿, 古谷元康: 周産期児の成長ホルモナーSFDとの関係, 第7回日産婦学会北日本連合地方部会, 1979. 9, 新潟.

4) 泉 陸一, 柳沼 恣, 長阪恒樹, 新居 隆, 川端正清, 細川 仁, 八木義仁: 子宮体癌の予後因子としての組織分類, 第7回日産婦学会北日本連合地方部会, 1979. 9, 新潟.

5) 川端正清, 八木義仁, 細川 仁, 新居 隆, 長阪恒樹, 柳沼 恣, 泉 陸一: 子宮頸癌治療後患者における末梢血リンパ球のPHA被刺激性の意義, 第7回日産婦学会北日本連合地方部会, 1979. 9, 新潟.

6) 柳沼 恣, 長阪恒樹, 新居 隆, 川端正清, 細川 仁, 八木義仁, 泉 陸一: 子宮内膜症の新療法Danacrine(Danazol)療法, 第7回日産婦学会北日本連合地方部会, 1979. 9, 新潟.

7) 藤盛亮寿, 古谷元康, 柳沼 恣: 高プロラクチン血症を伴ったStein-Leventhal症候群, 第7回日産婦学会北日本連合地方部会, 1979. 9, 新潟.

8) 川端正清, 川名 尚, 滝沢 憲, 白水健士, 坂元正一: 婦人科癌治療後患者の再発予知における末梢血リンパ球のPHA被刺激性の意義, 第17回日

本癌治療学会, 1979. 9, 東京.

9) Izumi R.: Chemotherapy for ovarian cancer, IX World Congress of Gynecology and Obstetrics, 1979. 10, Tokyo.

10) Yaginuma T. and Izumi R.: A negative correlation between blood prolactin and cortisol levels during labor, IX World Congress of Gynecology and Obstetrics, 1979. 10, Tokyo.

眼 科 学

教授	窪田靖夫
助教授	中村泰久
講師	窪田叔子
助手	山田祐司
助手	柿栖米次
助手	宝田千賀子

◆ 研究概要

1) 網膜色素変性症に関する研究. 網膜色素変性症の臨床像を分析, 検討し, 本症の進行性の予測, 薬物療法の治療効果, 進行に関する要因について検討した.

2) ベーチェット病の診断と治療に関する研究. 本症の電気生理学的方法による早期診断に関する研究を行ない, 早期診断を可能とするとともに薬物による治療効果について研究を進めている.

3) 眼窩腫瘍の診断に関する研究. 眼窩腫瘍の診断法につき, とくにX線を用いて, その局在, 性状等を検索する手技につき臨床的研究を行なっている.

4) 遺伝性眼疾患に関する研究. 遺伝性眼疾患, とくに染色体異常による眼疾患につき染色体の分析, 検討を行ない, 病因についての研究を進めている.

◆ 著 書

1) 窪田靖夫: 網膜色素変性症, 629, 今日の治療指針, 医学書院, 1979.

2) 中村泰久: 眼外傷, 630-631, 今日の治療指針, 医学書院, 1979.

◆ 原 著

1) Kubota Y.: Retinal degeneration induced by retinotoxic drugs, 906-907, International Congress Series NO. 450, XXXIII Concilium Ophth., ISBN Elsevier North-Holland, 1979.

2) 窪田靖夫: 眼外傷の統計的観察, とくに原因別に見た近年における推移について, 眼科臨床医報 73: 600-602, 1979.